

明治大学

明治大学では、教育目標に定める人材を育成するため、高校等における学習を通して確かな基礎学力を身につけた学習意欲の高い人、とりわけ、大学の教育目標を理解し、世界の課題に関心を寄せ、その解決に向けて挑戦する意欲がある人を受け入れることをめざしている。

明治大学の一般選抜は、「学部別入学試験」「全学部統一入学試験」「大学入学共通テスト利用入学試験（前期日程・後期日程）」の3方式にて実施。全体的に2022年度からの大きな変更点はないが、以下に概要を記載する。

一般選抜は2021年度入学者選抜からの

大きな変更点はなく、3方式で実施

最も募集人員が多い「学部別入学試験」は、2月7日（火）～17日（金）までの期間に各学部が1日ずつ実施する選抜方式。総合数理学部での2科目（数学・外国語）方式を除き、全学部にて3科目方式を採用。全問マーク式または記述式との併用により解答する。また、商・経営・国際日本の各学部については、英語外部試験のスコアを利用した「英語4技能試験活用方式」も実施。経営・国際日本学部は試験日の3時限に実施する外国語の試験は免除とし、所定の等級・スコアに応じた試験科目『外国語「英語」』の基礎得点（80・90・100点）に換算する。3科目方式と併願して受験することも可能だ。

学部によって利用方法が異なるので、詳細は大学ホームページ等で要確認。

全学部統一入学試験では、

4学部で英語4技能試験の利用が可能

「全学部統一入学試験」は、共通の試験問題によって全10学部が同時に実施する選抜方式。1度の受験で複数学部を併願すること

ができる。解答方法は全問マーク式、受験科目は当日選択することが可能（外国語は事前登録が必要）。また、農・経営・国際日本・総合数理の4学部で英語4技能試験が利用可能。体裁については学部別入学試験の英語4技能試験活用方式と異なり得点換算方式が基本。

大学入学共通テスト利用入学試験は

個別の学力検査なし

「大学入学共通テスト利用入学試験（前期日程・後期日程）」は、個別学力検査を課さず、大学入学共通テストの結果のみで選抜を行う。前期日程は全学部、後期日程は商・理工（機械工学科を除く）・総合数理の3学部で実施。

【2023年度入学者選抜の変更点】

・農学部農芸化学学科が指定校推薦入試導入。

【一般選抜のポイント】

1. 基礎学力を重視

いわゆる難問・奇問などの特別な試験対策は要求しない。

2. 合格最低点が高い

1点の重みを意識し基礎的な問題を確実に解答し得点を稼ぐ。

3. 過去問題研究を

問題の量が多い。正確さ、かつ速さが要求される。

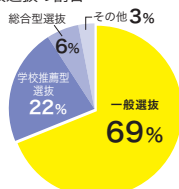
4. 不得意科目をつくらない

基礎を縦横無尽に使いこなせるだけの勉強量が必要となる。

INFORMATION

2022年度入試からの
大きな変更点はない

2023年度入試募集人員に占める
一般選抜の割合



年々、各大学において総合型・学校推薦型選抜による入学者が増加傾向にあるなか、明治大学は入学者の7割を一般選抜とし、基礎学力を重視する入学者選抜としています。

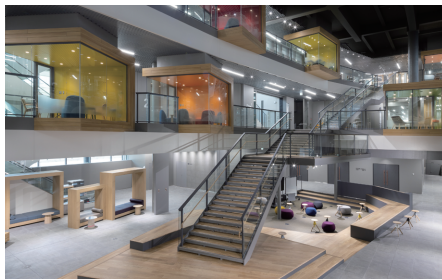
入試総合サイトで
最新の入試情報を



高大接続・連携担当
調査役
河野 理

期待する受験生像

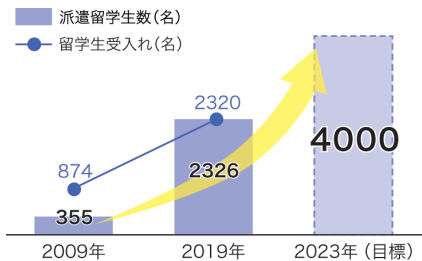
2021年度入試では大学入学共通テスト導入等様々な入試改革が実施されましたが、当初の計画は殆ど実現しませんでした。今回の文科省の入試制度改革の最大の問題点は、入試制度を変えることで中等教育を変えようとしたことです。高校生には、人生100年の時代、入試や就職がゴールではなく、一生学び続けることが大切であるということを実感させることが重要です。入試はあくまで手段であり目的ではありません。先生方には、今までどおり基礎学力を重視した進学指導をお願いいたします。



2022年4月、和泉キャンパスに8階建ての新校舎「和泉ラーニングスクエア」が誕生。6学部（法、商、政治経済、経営、文、情報コミュニケーション）の1、2年生が通う



2019年3月に誕生した国際混住寮「明治大学グローバル・ヴィレッジ」で留学生と日本人学生がともに生活し学ぶことで、日本にいないが留学体験のような経験が可能となる。



この10年間で飛躍的にグローバル化が進み、2023年に留学経験者比率50%をめざしている

一般選抜ほか入試情報は、入学センター公式LINEで要確認。
「Meiji.net」にて、明治大学の研究や人材の情報を得ることもできる。

明治大学入学
センター公式



LINE

明治大学発の
情報発信サイト



Meiji.net

明治大学の誇る
教授陣が社会問題に
切り込む Meiji.Net



アロー総研のフカボリ①

明治大学の「国際力」ーグローバル化の推進ー

「私がグローバル化に取り組みはじめた2008年頃の思いは、『卒業生が社会に出て、会社で責任あるポストに就く頃、明治大学出身者が時代を席捲してほしい。ここから20年が勝負』というものでした」

こう語るのは、2020年4月に着任した大六野学長である。実際、明治大学は、5つの国際化GP採択をはじめ、この10年間の取り組みは目を見張るものがあり、年間355名（2009年度）にすぎなかった派遣留学生数は、2019年度には2,326名と6.5倍に、留学生受入れも874名から2,320名に増加している。その派遣者数は日本国内の大学の中でも一、二を争う所まで順調に伸びている。さらに、2023年には派遣留学生数を4,000名とするビジョンを掲げているという（上表参照）。これまで「明治大学＝グローバル」のイメージはあまり浸透していないかもしれないが、これは驚異的な数字である。この躍進を支える充実した留学の助成金制度も見逃せない（右表参照）。

また、2022年8月からテンプル大学ジャパンキャンパス（東京都世田谷区、以下TUJ）との単位互換協定を拡大し、明治大学の全10学部からTUJへの学生派遣が可能となり、**コロナ禍でも東京都内で留学体験**をすることができるようになる。（TUJは学生のうち6割が外国人留学生で授業がすべて英語で行われている。）

明治大学は時代のニーズに合わせた「**新たな留学のカタチ**」を開発し、これからも国を超えた「大学の融合」を合言葉に真の国際化を目指していく。

明治大学の充実した留学の助成金制度

○外国留学奨励助成金

- 一定以上の成績の場合、協定大学への留学、あるいは認定留学で
- ・明治大学と留学先の授業料のうち、金額の低いほうを助成
- ・経費助成（1年間20万円、1学期10万円、1学期未満5万円）

○海外トップユニバーシティ留学奨励助成金

- 世界トップレベル大学への留学プログラムに参加した場合、大学に応じて
- ・1学期で300万円を上限に助成（約5人／年）
- ・1学期で100万円を上限に助成（約35人／年）

アロー総研のフカボリ②

「国際力」＋「研究力」＝「就職の明治」

「全国の高等学校の進路指導教諭が評価する大学ランキング（大学通信調べ）」において、明治大学は「就職に力を入れている大学」ランキングで12年連続1位という評価を得ている。就職キャリア支援センターは、さまざまなイベントやプログラムを開催しており、海外インターンシッププログラムまで用意されている充実ぶりである。「インターンシップ&グローバルキャリアプログラム in ジャカルタ」は経済産業省や文部科学省が後援する「インターンシップアワード2021」において私立大学で唯一、2年連続で優秀賞に選出されている。

「国際化とは、英語ができることでも留学することでもなく、ある種の“触媒”だというのが持論です。海外に出ることで学生の意識

に化学反応が起き、一皮むけた人間になる。これが重要なのです」（大六野学長）

また、「スーパーグローバル大学創成支援」など複数の事業が文科省の支援を受けているほか、13の世界水準の研究拠点が設置されている。明治大学発ベンチャー企業「株式会社ミートエボック」はドライエイジング手法で従来品より早く肉・魚の熟成化を可能にした「エイジングシート」の製造・販売を推進している。

「学生の就職先も変わってきました。『就職マーケットは日本だけではない』と、海外の大学や大学院へ留学し、海外の企業、日本の商社や外資系企業、OECDなどの国際機関に就職する学生も増えています」（大六野学長）

この「国際力」と「研究力」が新しい「就職の明治」を支えているキーワードになっていると言えるだろう。